

接種加速に「郡山モデル」

官房長官に根本氏提言

根本匠元厚生労働相(衆院福島2区)は28日、加藤勝信官房長官と官邸で会談し、新型コロナウイルススワクチン接種の加速に向けた方策を提言した。根本氏は、1日当たり約4千人の接種を見込む郡山市の取り組みを「郡山モデル」と提唱し、全国の市区町村にもノウハウを生かすよう求めた。

郡山モデルでは、7月末までの高齢者向け接種完了を目指すし、1日当たり集団(3会場)で約千人、個別で約3千人が接種できる体制づくりを進めている。個別と集団の適切な組み合わせを心掛け、市内の各医療機関が医師1人、看護師3人、事務員2人の計6人でチームを組み、当番制で集団接種に協力することが特徴だ。背景には市保健所を核に市医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会による円滑な連携がある。

医師ら6人1組の当番制

根本氏は非公開での会談後、報道陣に「司令塔の明確化とバックアップ体制の構築が大きい。医療資源や既存の予算をどう活用するか、実務の運用が問われる」と説明した。加藤氏は「好事例を集め、横展開することが大事だ」と応じたという。

根本氏 郡山市をモデルに ワクチン接種 官房長官に提言

自民党の根本匠衆院議員(本県2区)は二十八日、加藤勝信官房長官に対して郡山市の取り組みをモデルとした新型コロナウイルスワクチン接種の迅速化について提言した。

提言では市保健所、県医師会、市医師会などの団体、医療機関が円滑な接種に向けて連携し、各組織のトップが迅速に決断している郡山の事例を紹介。短時間で完了する集団接

種の仕組みづくり、接種の予約が殺到した際の対応、医療関係者のノウハウの共有、医療機関への支援策などを参考にするよう提言した。

根本氏は面会後の取材に対し、「好事例を集めて展開することで課題に対応できるはず」と述べた。